

海そして海外の地へ-I

小笠原諸島 & 琉球諸島航海

*I -to the land of Sea and Overseas Ryukyu*

*Islands and Ogasawara Islands Voyage*

岩崎行伸

還暦そして古希への加齢が、何時の間に時が無情にも流れつつある、この期は人生道のピークに達しようとしているが、これに反して呆け気味生活の始まりでもある。世の中では平成生まれの人達が社会的活躍を始めているという。

昭和年代が遠くなりつつある今日、私が歩いて来た道-Ⅲとして、海は広いな大きなの記憶を古いアルバム写真より辿ることにする。子どもの頃から、海の広さと碧さには憧れと夢を抱いていた。何時も、海そして海外へとその機会を狙っていたのである。

小笠原諸島(2011年世界自然遺産)が日本に返還されるというニュースに先駆けて、東海大丸ではこの島々内外の学術調査団(1967)が編成・実施され、東京都から父島・母島等に戦後初めて上陸が許可された。翌年には日本返還式(1968)と島周辺の魚類相調査に乗船参加し、父島・母島・南島・兄島・姉島等々周辺の海と空と星そしてハイビスカス等々南国の美しさには感動した。

外洋性大型魚の曳縄釣りによっては、多くの魚類(イソマグロ・カツオ・サワラ等)を釣獲・確認し、島回りの水産資源の豊富を確認した。野鳥類では花の蜜を吸う小笠原諸島の個有種メグロ(日本ではメジロ)の写真撮影に成功した。小学校の校庭には二宮金次郎の銅像が保存されていたことに日本式古来社会教育の効果に驚きを感じた。この島々の自然・固有生物等が何時までも保全・保護を願っている。

沖縄・八重山列島が、日本に返還されるという情報が流れた。返還前(1970)において、八重山諸島/尖閣列島沖の海底資源調査航海(1971)が国立大のN教授らと東海大N教授らにより企画され、海底資源と生物とくに日本産ウナギの産卵場調査が計画され、これらの調査団が編成された。水産海洋研究を行っていた私学の研究者も参加資格ありという、この機会に乗船参加希望が叶えられた。海底資源・生物・魚類班が編成され、東京港&清水

海そして海外の記憶-I

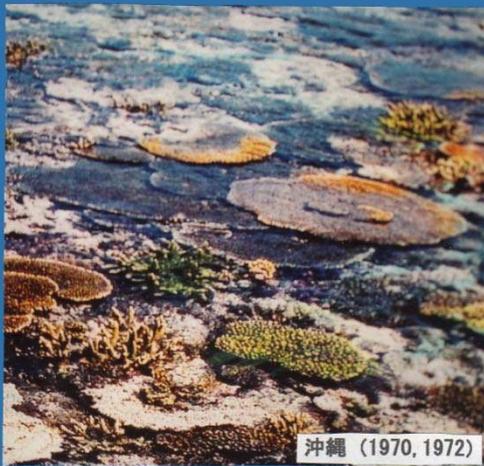
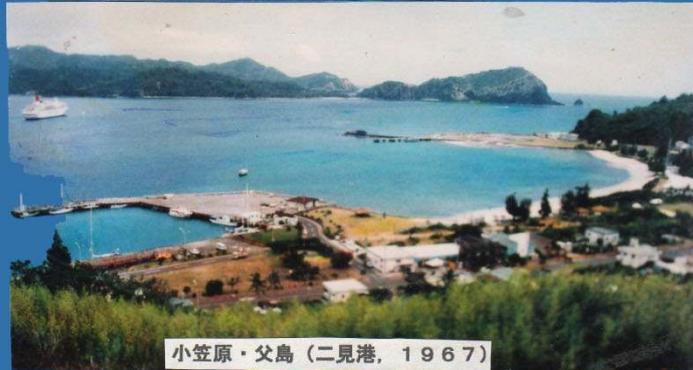


Photo by Y. IWASAKI

My HP 公開中 <光と影と彩の旅  
<http://www.geocities.jp/yukinobuiwasaki/>

図1. 海そして海外研修（上段：小笠原/父島港、中段：沖縄・石垣島、下段：マングローブ（西表島）

港を西方に出港した。

T大船丸は一路、その進路は沖縄・石垣島に向かうと、海の蒼さとサンゴ礁の美しさを始めて体験して感激した。尖閣列島周辺海域の海底には、多量のエネルギー資源が眠っていることを、この調査航海で確認している。

翌年、沖縄返還後（1973）、再度沖縄・石垣島-西表島（後にT大学の分室）周辺においてサバニ-舟で曳縄釣りでマルソウダ・ヒラソウダ、刺網と底延縄ではフエフキダイ類の多くを釣獲分布確認したことと、海の中のマングローブが茂っていて、その生きの強靭さには大変感嘆した。鳩間島に渡っての民宿では特別客に対して仔豚の丸焼と星砂に感動したことを、今日でも深く記憶している。機会あれば再度これらの島々に寄港したいと思う。

#### 参考文献

- 1) 続・富士山と生き物たち四季の魅惑（2004）：第VI部・小笠原諸島の海と魚、新海洋科学漁技研・生き物&環境研究編、黒船印刷（静岡）、岩崎行伸著
- 2) My HP 映像で綴る、「私が歩いてきた道」（2005）：  
<http://geocities.yahoo.co.jp/gl/yukinobuiwasaki>

#### 添付資料

- 1) 海そして海外の地へ（小笠原・父島二見港、沖縄・石垣島、西表島）

-----  
私が歩いてきた道-III、会員：自然観察研究会